

31 頁表 1-2 Y/N 欄の数値の小数点の位置ずれ

	人口	耕地	実収石高	Y/N	Y/R
	N	R	Y		
	万人	千町	千石	石/人	石/反
1600	1,200	2,065	19,731	1.644	0.955
1650	1,718	2,364	23,133	1.347	0.979
1700	2,769	2,841	30,630	1.106	1.078
1750	3,110	2,991	34,140	1.098	1.141
1800	3,065	3,032	37,650	1.228	1.242
1750	3,228	3,170	41,160	1.275	1.298

石井寛治『日本経済史 第2版』東京大学出版会、1991年、68頁。  
 原史料は、速水融・宮本又郎「概説 17-18世紀」『日本経済史』1岩波書店、1988年。

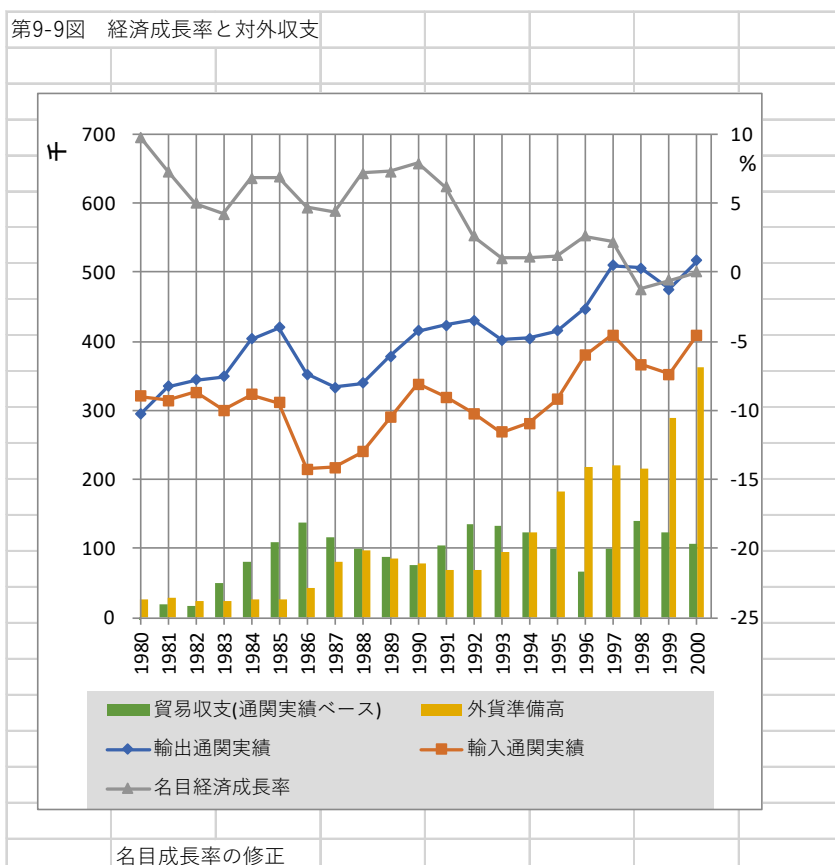
1. 34 頁 16 行 プラスアルファ → プラスアルファ
2. 43 頁 4 行 主要輸出品 → 主要輸出入品
3. 107 頁 2 行 消費拡大の結果に → 消費拡大の結果だけに
4. 108 頁最終行 価格の下落によって → 価格の下落にもかかわらず
5. 188 頁第 4-1 表右から 2 つめの表題 貿易収支 → 貿易外収支  
出所も訂正

	貿易収支	外資輸入残高	外債利払額	経常収支	正貨所有高
1905	△ 167	1,414	42	△ 324	479
1906	4	1,337	52	△ 24	495
1907	△ 60	1,401	63	7	445
1908	△ 62	1,459	53	△ 63	392
1909	7	1,561	55	4	446
1910	△ 19	1,777	63	△ 85	472
1911	△ 58	1,767	67	△ 104	364
1912	△ 66	1,859	72	△ 108	351
1913	△ 79	1,970	74	△ 93	376

出典)安藤良雄編『近代日本経済史要覧 第2版』東京大学出版会、93頁。経常収支は、  
 山沢逸平・山本有造『長期経済統計14 貿易と国際収支』222～224頁。

6. 202 頁 10 行 鉄鋼業の不振とともに → 鉄鋼業の不振とともに
7. 211 頁 第 4-10 表の表題 生産額 → 産出量
8. 280 頁下から 6 行 不要手急 → 不要不急
9. 320 頁 9 行 戦後経済期 → 戦後復興期
10. 334 頁最終行 設備供給機関 → 設備資金供給機関
11. 350 頁 10 行目 定期昇給 → 定期的な昇給
12. 372 頁脚注 3 行目 同時実施 → 当時実施

- 13. 405 頁 5 行目 輸出の拡大にもかかわらず、→輸出の拡大のために、
- 14. 405 頁 19 行目 電気 → 電機
- 15. 415 頁下から 7 行目 (第 9-9 図) は削除  
同 貿易収支 →貿易収支黒字
- 16. 416 頁第 9-9 図は 右軸のメモリが左とずれているために、差し替え



17.419 頁 14 行 背景にさまざま規制 → 背景にさまざまな規制